

総務産業常任委員会記録

1. 開催日時 令和 7 年 10 月 6 日（月） 午後 1 時 30 分
2. 場 所 市議会第 3 委員会室
3. 出席委員 重廣委員長・中平副委員長・首藤委員・谷村委員・米弥委員・
田村(大)委員・上田委員・吉津委員・重村委員
4. 委員外出席議員 南野議長
5. 欠席委員 なし
6. 執行部出席者 別紙のとおり
7. 議会事務局職員 大庭局長・杉村次長補佐
8. 協議事項
9 月定例会本会議（9 月 26 日）から付託された事件（議案 1 件）
9. 傍聴者 2 名
10. 会議の概要
 - ・ 開会 午後 1 時 30 分 閉会 午後 1 時 44 分
 - ・ 審議の経過及び結果
(別紙のとおり)

上記のとおり相違ありません。

令和 7 年 10 月 6 日

総務産業常任委員長

重 廣 正 美

記 録 調 製 者

杉 村 紀 子

重廣委員長 本日の出席委員については委員 9 人であり、定足数に達しておりますので、ただ今から総務産業常任委員会を開会します。最初に、委員並びに執行部の皆様に申し上げます。委員会において発言しようとする場合は、挙手をして「委員長」と呼び、委員長の許可を得てから発言していただくようお願いします。委員におかれましては、関連する質疑がある場合は「委員長・関連」と呼び続けて行われますようお願いいたします。また、質疑及び答弁については、一問一答方式によりできるだけ簡明に行われますようお願いいたします。それでは、これより 9 月定例会で本委員会に付託され、閉会中の継続審査となっております議案 1 件について審査を行います。はじめに、9 月定例会議案第 22 号「令和 6 年度長門市湯本温泉事業特別会計歳入歳出決算の認定について」を議題とします。執行部の補足説明がありましたらお願いします。

観光スポーツ文化部長 補足説明は特ございません。

重廣委員長 補足説明はないようでございますので、これより質疑を行います。ご質疑はありませんか。

田村大治郎委員 決算書 329 ページ、330 ページの歳入です。1 目「利用料」ですが、当初予算の見込みが 526 万 2000 円でしたけれども、決算ではこれを大幅に上回っておりますけれども、この見込みが上回った理由についてお尋ねいたします。

施設管理班主査 配湯利用料については、湯本地区にある旅館、ホテル 11 施設に配湯をして、それで利用料金をいただいておりますが、各ホテル、旅館の宿泊者数等は市が特に把握できるものでもなく、特定のホテル、旅館のことはちょっと個人的には言えませんが、配湯している 11 施設のうち 9 施設が、前年度と比較して増加していることが配湯利用料の増となっております。

重村委員 それでは、6 年度の決算を終えた時点での見解をお尋ねしたいと思います。この事業っていうのは、安定的に湯本温泉で業を営むホテル、旅館の皆さんに、安定供給と、供給するということがもう第一の事業だと思います。で、近年は物価高騰とか、この事業に関わる例えば電気料であったり動力料であったりとかいうものも、物価高騰っていうのは影響を受けてるというふうに私は認識するんですけど、配湯利用料の量に対して単価を改定される必要はある、ない。こらあたりの見解っていうのもこの 6 年度の決算のところで認識を確認しておきたいというふうに思いますが、料金の改定について何らかの見解を持たれてるか確認をしておきます。

施設管理班主査 令和 6 年度につきましては、施設更新工事等や人件費を除けば約 300 万円の黒字ということが確認しておりますけれども、今後、委員のおつ

しゃられるように、光熱水費とか、物価高によったら配湯利用料のところも検討していかなければならないと思っております。現状、詳しくはそこまで審査しておりません。

重村委員 そこまでは、部内の中で検討はしてないのかもしれませんが。私は、決算を迎えた時に、果たして、この事業の数値というものを受けて、次年度への予算の組み立てっていうのも、もう私は考える必要がある。決算というのはそういうものだっていう私は認識を持ってるんです。で、特別会計の原則っていうのは、その 1 会計の中できちんと歳入歳出のやりくりができる、独立でできるということがもう大原則、根底にあるわけですけど、ここはもう長年、仕方ないことに、一般会計からの繰入金を入れて歳入歳出の調整をしてるという現実があるわけなんです。そんな時に私は、やはり今回の決算を受けて、例えば旅館の業績も例えばいいという判断ができる。で、そういう大原則のことを常に頭に抱えながら、この決算数値から何を次期 8 年度の予算編成に生かしていくことが必要なのかっていうのは、私は原課としてきちんと考えるべき項目の 1 つではないかというふうに思います。それも昨年とか、例えば料金改定とかしてたらこれはやむを得ないかもしれない。しかし、ここ数年は、そういう条例改正案とか私は審査したつもりもないし、そういうのがあれば、私は、次の予算編成に向けてそういう見解は、原課としては私は持っておくのが普通だと思うけど、今のあれからするとそういう議論はされてないんだと思うんですけど、ここらあたりは部長の方に見解だけ確認しておきましょうか。

観光スポーツ文化部長 予算の編成前、決算の審査前には、やはり特会のあり方も含めて、やはり起債の償還がなくなって、利用料だけで今、足りない部分を一般会計から補うということをやってるんですけども、そこにはある程度起債等の、今までは借金部分もあったんですけど、それがなくなった時点で特会としてのあり方はどうかっていうのは、それぞれ予算、決算の時には担当部の中では検討はしております。ただ、それと今の物価高の関係は、ここは、一般会計側はプレミアム補助金とかその辺で業者さんに儲けてもらって、そこでということはあったとしても、特会側までどう波及してるかっていうところは、残念ながら私も配慮不足で、そこまで思いを寄せたことはないというところがちょっと今反省かなというふうには担当部では思ってるところです。今後は、しっかりそこはやっぱり検討の 1 つとして入れていくべきだろうと今思ってるところでございます。

田村大治郎委員 その他にいいですか。それでは決算書の 331、332 ページです。細かいことです。申し訳ない。事業コード 900、一般管理費です。消費税及び地方消費税が昨年の半分ぐらいになってるんですけど、これは何か理由があるんでしょうか。

施設管理班長 消費税及び地方消費税なんですけれども、こちらが、配湯利用料の収入の消費税部分と、歳出の消費税部分の差し引きを申告した結果がこういった形となっておりまして、減額になったっていうことは、歳出部分の消費税が大きかったっていうことになろうかと思います。

田村大治郎委員 はい。昨年度 565 万円ですね、配湯利用料が。で、今年が 670 万 2380 円ということで、この差額分が消費税に反映したっていうことですか。

施設管理班主査 消費税につきましては、歳入の額もありますけども、一般会計からの繰入金とかの様々な要因で消費税申告を行っておりまして、それが実際の税金部分の増減になるので、ちょっと今その資料がないので、どこでどのぐらい上がってますよって細かいことはお答えできませんけれども、ちょっと計算式に基づき、正確に申告は行っているところでございます。

田村大治郎委員 はい、わかりました。お答えなくても特に影響ないので、これで。続いてよろしいですか。じゃあ、その下に行きます。332 ページ、2 目の「貯配湯費」です。事業コード 900、施設整備工事ですけれども、これ、昨年、泉源及び配湯センターに設置のポンプの更新工事を行いましたというものです。で、工事の時期と稼働開始の時期、それから稼働状況について、把握をしておられるでしょうから、ちょっとお聞きいたします。

施設管理班主査 工事費については、おっしゃられる通り、泉源ポンプを 2 基交換しております。ちょっとはっきり、正確に、いつ変えたかっていうのはちょっと今記憶にはございせんけども、今正常に作動しております、特に異常などは認められておりません。

田村大治郎委員 聞いてしまいましたので、稼働開始時期、ちょっと調べていただけますか。

施設管理班主査 お調べして、またご回答させていただければと思います。

重廣委員長 それでは、休憩をいたします。回答が出るまで暫時休憩いたします。

— 休憩 13:41 —

— 開会 13:42 —

重廣委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

施設管理班主査 先ほどのポンプの更新時期ですけども、1 号泉源は令和 6 年 11 月、3 号泉源は令和 6 年 12 月となっております。

重廣委員長 それでは、今一度、9 月定例会議案第 22 号の全般にわたりご質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）ご質疑もないので、質疑を終わります。討論を行います。ご意見はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）ご意見もないので、討論を終わります。採決します。9 月定例会議案第 22 号について認定す

ることに賛成の方は挙手願います。挙手多数です。よって、9月定例会議案第22号は認定すべきものと決定いたしました。以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。これで総務産業常任委員会を散会いたします。どなたもご苦労様でした。

— 散会 13：44 —